



平等に運動 できる環境を

湯前さわやかクラブ「だんだん」会長、
社会体育移行検討委員会委員長

荒木 利八さん
(71=野中田3)

児童の幸せを一番に考えて検討を重ねてきました。みんなが平等に運動できる機会・環境を与えなければなりません。まずは普段の授業、夏休み、運動会といった学校行事を優先。夜の活動となれば、運動する子としない子の差が広がってしまうため、今までの部活動と同じく放課後に活動することを重視し、可能なコーチにお願いしました。コーチそれぞれ専門の種目も持っています。

それぞれの良いところを見つけ、褒めながら個性を伸ばしていきたいです。仲間・健康づくりのできる、児童の主体性を尊重した運営を行っていきます。嫌々やらされることなく、スポーツの楽しさを感じられるようにすることで、自ら進んで体を動かしてもらうことが理想です。将来、スポーツの選択の幅を広げられるような基礎体力をつけてほしいですね。今後、児童の意見を聞きながら、いろんなスポーツを取り入れていきます。



プレー中にこぼれるたくさんの笑顔。
楽しさが児童の自主性を伸ばす



開始前と終了後に打ち合わせるコーチ陣

特集1 総合運動クラブ 地域で育む心技体

「ダムダムダム」。「わっはっはっ」。ボールの弾む音と児童の笑い声が響く放課後の湯前小学校体育館。本年度から小学校の運動部活動に変わり、新しい運動クラブが誕生します。その無料体験会が3月に2回開かれ、児童が楽しく汗を流していました。



1得点係は児童が交互に担当2休憩時間も仲間と楽しく3横一列でモップかけ。片付けは全員で4コーチも笑顔で指導



布製のディスクを使った「ドッジビー」。
新しいスポーツと出会えるチャンス

さわやかクラブ「だんだん」を中心にして、児童の運動の場を担っていくというものでした。

仲間と育む「心」

だんだんは住民が運営する総合スポーツクラブで平成19年に発足。現在、ソフトテニスやバレー、フットサル、歌声ひろばなど10種目に、未就学児80代の72人が参加しています。新しく始まる総合運動クラブは小学4～6年生が対象で、体と心の健康と仲間づくりが目的。数回ごとに種目を変え、走る、飛ぶ、投げるなどの基礎体力の向上を図ります。保護者の送迎や児童の疲労を配慮し、日時はこれまでの部活動と同じ、毎週火・金曜日の午後4時30分～5時30分で、場所も小学校の体育館が基本。第1回の活動を5月7日に予定しています。指導者は、新たに立ち上げた「だんだん」コーチ部会の会員で原則住民。現在、スポーツ推進委員、体育協会員、元幼稚園・小学校教諭など9人が所属しています。



小原 真雄さん※右
(湯前小5年=田上)
財部 颯真さん
(同=瀬戸口)

好きな競技が増え、待ち遠しい

(二人)スポーツの中では陸上、特に長距離が好きです。(小原)このクラブでソフトバレーを初めて体験しましたが、とても好きな競技になりました。(財部)友達と一緒にいるんな運動が楽しめるので、5月からのクラブ活動も、とても楽しみにしています。



森下 一富コーチ
(66=馬場)

楽しさと思いやりを伝えたい

私が小学生のころにクラブ活動で感じたスポーツの楽しさを今の児童にも感じてほしいと思いコーチになりました。たくさんの児童にスポーツを好きになってほしいですね。スポーツは一人ではできないもの。クラブの中で、相手を思いやる気持ちを伝えたいです。

Information 総合運動クラブ会員募集中

- 対象者 湯前小4年～6年生
- 日時 毎週火金 午後4時30分～午後5時30分
- 場所 湯前小学校体育館
- 内容 [5～6月]体幹づくり、バレーなどのボール遊び、陸上 [10～翌3月]体幹づくり、バスケット、バドミントン、ニュースポーツなど
- ※長期休暇や祝祭日は休み
- 年会費 3000円 ※家族二人目以降は半額
- ②指導者を募集します 競技種目は問いませんので、気軽に事務局へ問い合わせください。
- 申し込み・問い合わせ だんだん事務局(海洋センター) Tel. 0966-43-4555

3月7日の無料体験会には、湯前小3年～6年生35人が参加。準備体操を済ませ、コーチから指導を受けながら、布製のディスクを使った「ドッジビー」や「ソフトバレーボール」をプレーしました。「元気なあいさつ」「靴はきれいに並べる」などの八つの約束を守り、仲間と笑顔で競技を楽しむ児童。得点盤係を交互に担当し、終了後に並んでモップをかけるなど、心も育てていました。

本町では、児童の体力作りの場を残そうと、3年前に検討委員会(荒木利八委員長)を立ち上げました。さまざまな運動ができる「総合運動クラブ」の設立を目指し、学校関係者や住民など14人がクラブのあり方を検討。昨年は試験的に前期(6、7月)と後期(10月～2月)で週一回、放課後にクラブを開催しました。

3月8日、委員会は中村和弘教育長に、指導方針や今後の計画を含んだ答申書を提出。内容は、本年度以降、地域と総合型地域スポーツクラブ湯前

少子化でのチーム編成や、児童が望む競技の多様化、指導者不足。時代の変化は小学校の部活動にも影響を与えました。県教育委員会は児童のスポーツ環境を見直そうと、4年前に小学校の運動部活動を社会体育に移行する指針を定め、本年度から原則、県内全域で部活動が廃止されることになりました。

残そう、体づくりの場